

美 をつくし

MIWOTSUKUSHI

vol.179

平成25年(2013)3月1日 発行



色絵 ^{あかささ}赤更紗模様皿 九谷 富本憲吉(1886~1963)

昭和16年(1941) 本館蔵(辻本コレクション)

富本憲吉は大正15年に東京の祖師谷に転居した。東京時代には冬季は素地が凍るために、京都や信楽、九谷や波佐見などに赴いて、伝統的な技術を学びながら新しい独自性の高い作品を生み出していった。本器も九谷の赤絵技法の習得の中から生まれた作品。四弁花模様を面的な連続模様仕立てており、染織の模様のような印象を与えることから、富本本人が「赤更紗」と命名した。手描きの同じ模様の皿を40枚ほど作成したといわれている。



OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS

大阪市立美術館

香港芸術館「大阪市立美術館蔵宋・元・明中国書画珍品展」

近年、中国の経済発展に伴い、中国国内はもとより、世界中で中国美術を主題とした展覧会が盛んに開かれている。本館でも、中国書画作品の海外館からの依頼がにわかに多くなってきた。一昨年度（2010年）のニューヨーク・メトロポリタン美術館の「The World of Khubilai Khan—Chinese Art in the Yuan Dynasty」、上海博物館の「千年丹青—日本中国蔵唐宋元絵画珍品」に次いで、本年度も蘇州博物館と香港芸術館から出陳依頼を受けていた。

蘇州博物館は「石田大穰—呉門画派之沈周特展」と題する展覧である。明代中期、豊かな江南の農作物と絹織物工業により蘇州は繁栄を極め、数多の文人が集って詩文書画を競った。彼らは蘇州の別称をとって「呉派」と呼ばれ、絵画では沈周・文徵明・唐寅・仇英が「明四大家」と称される。その筆頭に挙げられる沈周（号は石田）の展覧会で、本館からは4件を貸し出すこととなった。

一方の香港芸術館は「大阪市立美術館蔵宋・元・明中国書画珍品展」と題する、本館の収蔵する中国書画「阿部コレクション」を紹介する特別展覧であった。2012年11月30日より2013年1月9日まで、香港特別行政区政府康樂及文化事務署の主催、大阪市立美術館協催、香港芸術館・大阪市立美術館合同企画という形で開催された。おりしも日中国交正常化40周年にあたり、香港側としては特別行政区成立（中国復帰）15周年および香港芸術館開館50周年の祝賀行事という位置づけでもあった。

この展覧会は、3年以上前の2009年春、香港芸術館館長司徒元傑氏からの、阿部コレクションをぜひ香港で、という打診に始まった。同年12月、当館館長との交渉を経て、翌年に2012年秋の開催が内定した。作品の選定から、協約書の締結、写真や資料の手配、輸送の段取り、重要文化財や象牙（掛軸の軸端）の輸出手続き、保険条件の交渉といった煩瑣な事務作業まで……相互に苦心を重ねてようやく、という時に尖閣問題である。

香港芸術館は香港の九龍半島の突端、目抜き通り彌敦道の南端、香港文化中心の中に位置する。5階建てビルの壁に掛

けられた巨大な展覧会バナーは彌敦道からもよく目につく。周囲にはコンサートホール、大小の劇場、プラネタリウムなどが立ち並び、前には半島ホテルや喜来登酒店、傍らには天星小輪乗場、裏手は維多利亞港に面する絶好のロケーションである。ロビーや踊場からは対岸の香港島に林立する高層ビル群が一望でき、日没後はまばゆい夜景が楽しめる。2階には有名な「虚白齋コレクション」の展示室があり、中国書画の優品を常に見ることができ（随時展示替）。香港を訪れたおりには、お立ち寄りいただきたい。

出品作品は、伝・王維「伏生授経図」、燕文貴「江山樓觀図」など、当館蔵品を代表する38件である。会場は4階の中国書画展覧庁。縦軸は空間を贅沢に使う、ゆったりと展示されている。巻子の上部のガラスの所々には、光源の目隠しも兼ねて作品の拡大シートが張られ、細部が見られるようにしてある。また、数点の作品には大きなパネルで、細部や収蔵印の解説、構図の説明などが施されている。揭示解説は簡略だが、多くの図版と解説が載ったパンフレットが無料で配られていた。

開幕前日には記者会見と開幕式があった。十数にのぼる新聞・雑誌社が取材に来ており、翌日、宋元の名品の到来という盛挙が紙面を賑わせたが、併せて「阿部コレクション」の説明に各紙が言及していたのが特徴的であった。開幕式では篠館長が挨拶、翌初日には弓野が阿部房次郎とその収集について講演を行った。

昨秋よりの日中関係の齟齬が懸念されたが、展覧会開始まもなく、展覧会が大きな反響を呼んでいる、との嬉しいメールが飛び込んできた。香港市民の歓迎を受けたばかりでなく、中国本土はもとより台湾などからの来訪も多かった。結果来館者は36日間の開催で92,921人。芸術館の通常の特別展は2-3ヶ月で3-4万人らしく、その数は突出していたそうである。

ちなみに蘇州博物館は観光地で普段から来客が多いが、延べ62日の開催で入館者数180,420人、去年同期比20%増で大成功だそうだ。今回の両展覧会が、大阪と香港や中国大陆との文化交流の一翼を担えたものと確信している。

（弓野隆之）



開幕式で祝辞を述べる篠雅廣館長



香港芸術館外観



展覧会場風景

特別展

ボストン美術館 日本美術の至宝

JAPANESE MASTERPIECES FROM THE MUSEUM OF FINE ARTS, BOSTON

4月2日(火)～6月16日(日)

修復後、世界に先駆けて公開される曾我蕭白の
超大作「雲龍図」をはじめ、海を渡った“まぼろし
の国宝”、史上最大の里帰り！

東洋美術の殿堂と称されるアメリカのボストン美術館には、
10万点を超える日本の美術品が収蔵され、海外にある日本美

術コレクションとしては随一の規模と質の高さを誇っています。
この日本美術コレクションは、アーネスト・フェノロサ、ウィリアム・
スタージス・ビゲロー、岡倉天心といったボストン美術館草創期
の人々によってその基礎が作られました。

ボストン美術館は、作品保護の観点から作品の展示期間を
厳しく制限しており、本展の開催に向け、その出品作品のほと
んどを5年間にわたって公開を控えて準備をしてきました。また、
ウィリアム・スタージス・ビゲローのコレクション寄贈100年記
念事業として、日本とアメリカの協力のもと、未公開作品を含む
大規模な保存修復事業を行ってきました。

本展では、修復された未公開作品を含め、ボストン美術館の
日本美術コレクションから70点の名品を厳選してご覧いただき
ます。仏像・仏画に絵巻、中世水墨画から近世絵画まで、かつ
て海を渡った“まぼろしの国宝”とも呼べる日本美術の至宝が一
堂に里帰ります。



雲龍図(部分) 曾我蕭白筆
江戸時代・宝暦13年(1763) ボストン美術館蔵



島松図屏風 尾形光琳筆
江戸時代・18世紀前半 ボストン美術館蔵



平治物語絵巻 三条殿夜討巻(部分)
鎌倉時代・13世紀後半 ボストン美術館蔵



弥勒菩薩立像 快慶作
鎌倉時代・文治5年(1189)
ボストン美術館蔵

All Photographs © 2012-2013 Museum of Fine Arts, Boston.

展覧会公式ホームページ <http://www.boston-nippon.jp/>

■記念講演会

いずれも13時30分～15時 大阪市立美術館 講演会室 定員150名

①4月2日(火)・「継続する歴史:ボストン美術館の日本美術」

②5月11日(土)・「蕭白の奇想絵画」

③5月18日(土)・「至宝が眠る蔵の中へ-ボストン美術館での日本絵画調査-」

※事前申込制 無料。ただし当日の本展観覧料が必要。応募多数の場合抽選。申込方法等については大阪市立美術館・総務課までお問い合わせください。

講師:アン・ニシムラ・モース(ボストン美術館 日本美術課長)

講師:冷泉為人(公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫理事長)

講師:木村重圭(甲南女子大学教授)

■美術講座

13時30分～15時 大阪市立美術館 講演会室 定員150名

4月19日(金)「フェノロサ、ビゲローと大阪の古美術商・山中」

講師:知念理(当館主任学芸員)

※申込不要、無料。ただし当日の本展観覧料が必要。

■見どころレクチャー

いずれも11時～11時30分 大阪市立美術館 講演会室

4月16日(火)・23日(火)・26日(金)

講師:担当学芸員

※申込不要、無料。ただし当日の本展観覧料が必要。

北魏 石造仏教彫刻の展開 (仮称)

Development of Buddhist Sculpture in Northern Wei Dynasty, China

9月7日(土)～10月20日(日)

インドで生まれた仏教は、中国へ後漢時代(紀元後1世紀頃)に伝えられ、南北朝時代(5-6世紀)になると国家事業としての寺院の建立と巨大な石窟の造営が行われました。そして、仏教が広く中国全土に浸透する中で、地域ごとに特色のある仏像が生み出されるようになります。こうした長い中国仏教史において、最も優れた石造仏教彫刻が生み出されたのが、南北朝時代の北魏(ほくぎ/386-534)王朝でした。

本展では国内に収蔵される主要な優品と、山口コレクションをはじめとする館蔵・寄託作品を加えた約60件により、北魏石造仏教彫刻の全体像について「仏像の地域性」をキーワードに浮き彫りにしたいと考えています。

日本において、中国の仏教彫刻はまだまだ人々の目に触れていないのが現状といえます。しかしその一点一点を観察すると、今日では不可能なほど精巧な彫刻技術を示す作品や、素朴な温かみを感じさせる作品、さらには日本の仏像と密接な関係をもつ作品など、見飽きることがありません。

なお9月中旬に、中国から仏教美術研究者をお招きする特別講演会を予定しています。詳細につきましては当館ホームページにて発表いたします。

本展は、1500年前の北魏に焦点を絞ったきわめて稀な展覧会です。この機会をぜひお見逃しなく。



石造 如来坐像
北魏・天安元年(466) 本館蔵(山口コレクション)

テーマ展

陶芸家・富本憲吉の世界

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

辻本コレクションから、人間国宝となった富本憲吉(1886～1963)による陶芸作品と絵画資料類を、大和時代(大正2年～大正15年)・東京時代(大正15年～昭和21年)の作品を中心に展覧します。

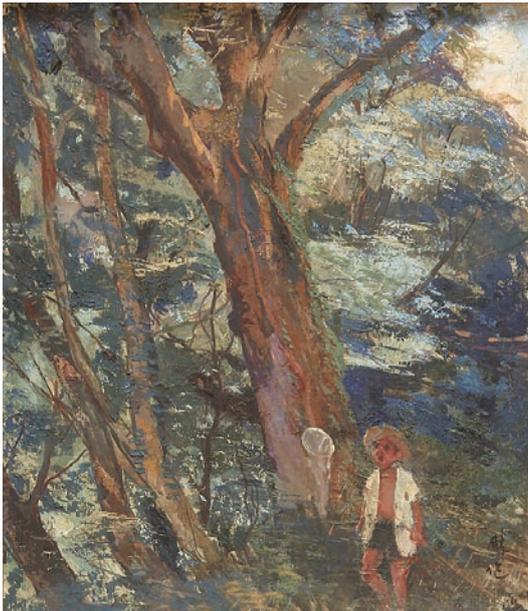


色絵染付 沢薊模様皿 九谷 富本憲吉
昭和11年(1936) 本館蔵(辻本コレクション)

絵の中のぼくの夏

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

長い長い夏休み。幼いころ、太陽の下で海や野山に遊んだ思い出はありませんか?美術館では、そんな夏の記憶を呼び起こす絵画を展示します。絵の中の懐かしい風景を探しに、ぜひお出かけください。



赤松麟作(1878～1953)「蝉とり」
昭和 本館蔵(南方登美子氏寄贈)

中国工芸 ―青銅器・陶磁器を中心に―

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

新石器時代の彩陶からはじまり、商周青銅器や唐代の三彩・銀器、宋金代の白磁・青磁・白地陶器などを経て、色彩豊かな明清時代の青花や五彩、精緻な装飾のある漆器まで、中国5000年の工芸作品を展覧します。



青花 瑞果文水注 景德鎮窯
明時代初期 15世紀 個人蔵

ミュージアム セレクション

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

開館77年を迎える美術館に集まったコレクションのなかから、中国、日本の名品を展示いたします。



蔣廷錫(1669～1732)「藤花山雀図」
清時代 18世紀 本館蔵(阿部コレクション)

テーマ展

特集展示

たっぷり見たい屏風絵Ⅱ

8月6日(火)～9月1日(日)

昨年度好評をいただいた特集展示「たっぷり見たい屏風絵」の第二弾。館蔵・寄託の屏風絵から優品約20点を大公開します。大画面の持つ魅力をたっぷりとお楽しみください。



源氏物語図屏風(部分)
江戸時代 17世紀 個人蔵

■見どころトーク

8月17日(土)
11時、13時、14時(各回30分程度) 講師:当館インターン(大学院生)

■美術講座

「屏風で愉しむ源氏物語」
8月24日(土) 13時30分～15時 講師:知念理(当館主任学芸員)

特集展示

根付と装身具

9月7日(土)～10月14日(月・祝)

根付は本来、印籠やたばこ入れを腰帯から提げて用いる時の滑り止めです。江戸時代後期になると様々な主題を精緻な技を尽くして表現された作品がたくさん作られました。スイス人U.A.カザールが蒐集した当館の根付は、奇跡的に海外流出を免れた貴重な750点のコレクションです。今回は根付を中心に、印籠・煙管筒・櫛・弁・簪などの江戸時代の装身具と、小袖衣裳などを展示いたします。



夕顔に虫時絵瓢箪根付
江戸～明治時代



木彫根付 猿 影正銘
明治時代 19世紀



象牙彫根付 関羽
江戸～明治時代 19世紀

■見どころトーク

10月2日(水)、10月9日(水)
14時から30分程度

■学芸員による鑑賞講座

9月28日(土) 14時～15時 講師:土井久美子

展覧会スケジュール 平成25年(2013)3月～4月

※ は休室

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特別展 特別陳列	特別展「第44回 日展」																														
テーマ展	雛人形 小西家旧蔵光琳関係資料 カザールコレクション 美しい根付 描かれた女性たち																														
美術団体展 (地下展覧会室)	2013・ZERO展(1・2室) 全国公募翠煌会書展・ 翠煌会書展(3室) 全日本アートサロン 絵画大賞展(4室)				2013白亜選抜展 併催白亜関西展(1・2室) 人展(3室) 青桃会展(4室)				関西一陽展(1・2室) 国際水墨画展(4室)				関西水彩画展(1・2室) 不二現代書展(3・4室)				関西独立美術展(1・2室) 創彩展(3室) 耿友会書道展(4室)														

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展 特別陳列	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」																													
テーマ展																														
美術団体展 (地下展覧会室)	新槐樹社大阪展(1・2室) 新美工芸会展(3室) 公益社団法人 日本広告写真家協会公募展 APAアワード2013(4室)				日本書芸院四月展 (一科審査員・無鑑査員特別賞) (1～4室)				日本南画院展(1～4室)				ミレー友好協会展(1・2室) 新協関西巡回展併催公募展(3・4室)																	

■ 展覧会スケジュール 平成25年(2013)5月~9月

※ は休室

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展 特別陳列	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」																														
テーマ展																															
美術団体展 (地下展覧会室)	全関西行動美術展(1・2室) 大阪美術協会日本画展(3・4室)				研水会展(1・2室) 立鼎社水墨画協会展(3・4室)				和紙絵画和紙院展(1室) 浪花竹翠会墨彩画公募展(2室) 日本篆刻展(3・4室)				東光会関西展(1・2室) 公募元展(3・4室)				全国神融会書展 併催公募展(1・2室) 竹翠会書道展(3室) 由源全国書道展 学生部展(4室)														

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
特別展 特別陳列	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」																														
テーマ展																															
美術団体展 (地下展覧会室)	新世紀展(1・2室) 春陽展大阪展(3・4室)				国展(1~4室)				五柳会公募書展(1・2室) 関西二紀展(3・4室)				日本書芸院六月展 (二科審査員)(1~4室)																		

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展 特別陳列	特別展「第59回全関西美術展」																														
テーマ展	[陶芸家・富本憲吉の世界][中国工芸] [絵の中のぼくの夏][ミュージアム セレクション]																														
美術団体展 (地下展覧会室)	墨滴会全国書展(1・2室) 公募新美術協会展(3・4室)				関西旺玄会展・ 旺玄会大阪巡回展(1・2室) 春秋画壇展(3室) 現代水彩画展(4室)				二元展(1・2室) 現展関西展(3・4室)				大阪私学美術展(1~4室)																		

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展 特別陳列																															
テーマ展	特集展示「たっぷり見たい屏風絵II」													[陶芸家・富本憲吉の世界][中国工芸] [絵の中のぼくの夏][ミュージアム セレクション]																	
美術団体展 (地下展覧会室)	日洋展大阪会場(1・2室) 創元展併催大阪支部 三重支部展(3・4室)				高校展(大阪府高等学校 美術・工芸展)(1~4室)				泰山書道院展覧会(2室) 具現展(3室) 研展(4室)				全日本高校・大学生 書道展(1~4室)				日本書道芸術院展(1・2室) 2013IFA展(3室) 関西平和美術展(4室)														

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展 特別陳列	特別展「北魏 石造仏教彫刻の展開(仮称)」~10/20																													
テーマ展	特集展示「根付と装身具」~10/14																													
美術団体展 (地下展覧会室)	玄遠社書展(1・2室) 全国公募日本墨相展(3室) 三軌会写真部移動展(4室)				日本綜合書作院展(1・2室) 現代南画展(3・4室)				関西美術文化展(1・2室) 新象展(3・4室)				創造展(1・2室) 集団造形展(3室) 全国硬筆作品展覧会(4室)																	

大阪市立美術館・その他事業のご案内

特別展 「全関西美術展」 開催日：平成25年7月 9日（火）～7月21日（日）

特別展 「第45回 日展」 開催日：平成26年2月22日（土）～3月23日（日）

美術研究所

昭和21年に創設され、公立施設としては他に類をみないユニークな専門教育機関としてスタートしました。素描・絵画・彫塑の実技研究の事業を行っています。入所者はまず石膏素描前期からスタートし、年6回ある実技コンクールに合格した者が石膏素描後期、人体素描、絵画、彫塑へ順次進級していきます。

入所検定は、入所希望者に対して年4回（4月、7月、10月、1月）実施します。入所検定申込書をご希望の方は、90円切手を貼った封筒（長形3号）を同封し、入所検定申込書希望とお書き添えの上、大阪市立美術館「美術研究所」宛にお送りください。

- 入所検定 / 「入所検定申込書」に検定料3,600円を添えて検定実施当日にご持参ください。可否の結果は、別途郵送にて通知します。
◎ 検定要領は大阪市立美術館「美術研究所」までお問い合わせください。TEL：(06) 6771-4874
 - 入所料 / 5,400円…入所時には入所料と研究料（3ヵ月分）合計26,400円を全納してください。
 - 研究料 / 月額研究料—石膏前・後期・絵画7,000円 / 人体・彫塑11,000円…毎月の研究料は前月末までに納付してください。
- 平成25年度入所検定予定日：平成25年3月29日（金）・6月28日（金）・9月27日（金）・平成26年1月17日（金）

友の会

“FINE ARTの世界へご案内します”

友の会では、日曜日に石膏、裸婦、人物コスチューム、静物の日曜洋画会（絵画等の制作）を開催しています。料金は一日当たり、石膏デッサン800円、人体モデル・静物1,500円のチケット制（5枚綴り・バラ売り不可）で、別途モデル料が必要です。

- 年会費 一般4,000円 学生3,000円
- 特典 大阪市立美術館での展覧会鑑賞の優待だけでなく、美術館展覧会に関する情報満載の「友の会ニュース」を配送しています。まず、友の会で活動されてから美術研究所に入所されてはいかがでしょうか。

お問合せ：TEL/FAX：(06) 6779-9288 E-mail: tomonokai@osaka-art-museum.jp

随時
会員募集中!!

大阪市立美術館（天王寺公園内）



- 特別陳列 観覧料
一般500円（団体400円）、高大生400円（団体300円）
- テーマ展 観覧料（特集展示を含む）
一般300円（団体150円）、高大生200円（団体100円）
中学生以下・障がい者手帳等をお持ちの方は無料 団体料金は20名以上
※大阪市内在住の65歳以上の方はテーマ展・特別陳列は無料（要証明）
※特別展は別料金。特別展併設時は特別展観覧料でテーマ展もご覧いただけます。
※平成25年度より平常展はテーマ展という名称に変わりました。

- 休館日
月曜日（祝日の場合はその翌日）、展示替え期間、年末年始
災害などにより臨時で休館となる場合があります。

- 開館時間
午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）



- 交通
地下鉄御堂筋線、谷町線、JR「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅、阪堺軌道上町線「天王寺駅前」駅下車
または市バス「あべの橋」停留所下車、北西へ約400m